

令和 6 年度「中御所保育園 保護者アンケート・自己点検評価」

1. 令和5年度の活動目標

【園の目標】

運営方針 ・安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。

- ☐ ・養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
- ☐ ・保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- ☐ ・家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割をはたします。

園 目 標 「「少しずつ戻ってきた、人との素敵なコミュニケーションをさらに深めよう!!」

「〈今日は何をして遊ぼうか?〉子どもたちが夢中になれる環境づくり」

2. 保護者アンケート

〔評価基準〕

- A 〈よくできている・よかった・賛成〉
- B 〈どちらかと言うとよくできている・よかった・賛成〉
- C 〈どちらかと言うとできていない・よくなかった・反対〉
- D 〈まったくできていない・よくなかった・反対〉

(%)

保護者アンケートの内容 (R5.12.28 実施)	評 価			
	A	B	C	D
(Q1) お子さまの認定区分にお選びください。	2 標 48.0	2 短 14.0	3 標 34.0	3 短 4.0
(Q2-1) 園の保育方針について評価をお願いいたします。	75.9	24.1	0.0	0.0
(Q3-1) 目標の設定内容・取組・成果について評価をお願いいたします。	74.6	25.4	0.0	0.0
(Q4-1) 園の「保育」の内容について評価をお願いいたします。	75.9	24.1	0.0	0.0
(Q5-1) 職員のお子さまへの対応について評価をお願いいたします。	76.3	22.0	1.7	0.0
(Q6-1) 職員の保護者さまへの対応について評価をお願いいたします。	72.4	27.6	0.0	0.0
(Q7-1) 園の施設・設備について評価をお願いいたします。	81.4	18.6	0.0	0.0
(Q8-1) 「ルクミー」の情報発信について評価をお願いいたします。	75.9	15.5	6.9	1.7
(Q9-1) コロナウイルスやインフルエンザ等感染症への対応について評価をお願いいたします。	79.7	20.3	0.0	0.0
(Q10-1) 給食について評価をお願いいたします。	91.4	8.6	0.0	0.0
(Q11-1) 12月の「たのしみ会」の開催場所について、お聞かせください。	97.8	2.2	0.0	0.0
(Q12-1) 写真のネット販売について使い勝手、価格等について評価をお願いいたします。	70.7	20.7	5.2	3.4
(Q14-1) 本園を何からお知りになりましたか。	ロコミ	ネット	市刊行	その他
	19	34.5	19	27.5
(Q15-1) 本園をお選びいただいた理由をお聞かせください。※1番重視した選択理由を選んで下さい。	最寄	職場近	設備	その他
	54.2	13.6	10.2	22.0
(Q16-1) 本園を選んで良かったと思いますか。	86.4	13.6	0.0	0.0

保護者アンケート A 評価 77.4% B 評価 18.2% C 評価 1.2% D 評価 0.7%

3. 自己評価

〔評価基準〕

- A 〈よくできている・よかった・賛成〉
 B 〈どちらかと言うとよくできている・よかった・賛成〉
 C 〈どちらかと言うとできていない・よくなかった・反対〉
 D 〈まったくできていない・よくなかった・反対〉

(%)

評価項目	自己点検評価の内容	評 価			
		A	B	C	D
I、保育の計画性 自己評価 (B)	1 園の保育理念・保育方針を理解し、共感している。	50.0	50.0	0.0	0.0
	2 園の方針や園長の考えについて、園長や職員間で自由に話し合える環境があり、話しあう機会が確保されている。	30.0	65.0	5.0	0.0
	3 要領・指針を理解し、幼児の姿や環境の構成、保育者との関わりなど具体的な事例を思い浮かべることができる。	35.0	65.0	0.0	0.0
	4 園の教育課程は要領・指針をふまえ園の理念・方針にしたがい編成されている。	35.0	65.0	0.0	0.0
	5 1年間の子どもの成長を振り返り、教育課程を評価している。	68.4	31.6	0.0	0.0
	6 園の教育課程は社会状況や幼児の実態、地域性を考慮し必要に応じて見直しを行っている。	55.0	45.0	0.0	0.0
	7 指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活などを考慮し作成している	61.1	33.3	0.0	5.6
	8 行事は、幼児の生活上の意義を十分検討した上で、指導計画に組み入れている。	55.6	44.4	0.0	0.0
	9 指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている。	52.6	42.1	5.3	0.0
	10 楽しい雰囲気の中で、安定して遊び込める様に遊具や用具、素材など質・数量を配慮して環境構成をしている。	30.0	50.0	20.0	0.0
	11 幼児の活動がより豊かになるように幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている。	42.1	52.6	5.3	0.0
	12 幼児の発達や生活を見通して、季節の変化に応じた環境構成をしている。	42.1	57.9	0.0	0.0
	13 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。	26.3	57.9	15.8	0.0

	14 自分の保育と評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている。	57.9	42.1	0.0	0.0
	15 お互いに保育を見せ合って、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。	15.8	68.4	10.5	5.3
Ⅱ、保育の在り方、 幼児への対応 自己評価 (B)	1 朝の登園時は特に視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確かめている。	84.2	15.8	0.0	0.0
	2 体調が悪そうなときや万一事故が起きた場合には適切な処置を行いすぐに家庭や関係機関に連絡している。	90.0	10.0	0.0	0.0
	3 幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している。	45.0	55.0	0.0	0.0
	4 一人の幼児をじっくりと見ながら、見えないところで活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる。	45.0	50.0	5.0	0.0
	5 個々の幼児の発達の姿や課題についても見通しを持って理解できる。	40.0	60.0	0.0	0.0
	6 幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めるようにしている。	60.0	40.0	0.0	0.0
	7 幼児との温かなやり取りやスキンシップを常に心がけている。	80.0	20.0	0.0	0.0
	8 幼児の話をよく聞く様にしている。	60.0	40.0	0.0	0.0
	9 「一人ひとり」と「みんな」の関係を常に考え、クラス集団をまとめている。	31.6	68.4	0.0	0.0
	10 幼児が遊びや活動を深めて行くためのヒントやアイデアを提供している。	21.1	68.4	10.5	0.0
	11 幼児をほめたり、励ましたり、目標を持たせるような言葉がけをしている。	68.4	31.6	0.0	0.0
	12 禁止、命令、行動を急がせたり、自分を失わせる言葉や態度は出来るだけ控えている。	25.0	70.0	5.0	0.0
	13 幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている。	50.0	45.0	5.0	0.0
	14 支援を必要とする子が入園したとき、個別的対応やクラスの子どもと共に育ち合える保育を積極的に進める様に考えている。	42.1	52.6	5.3	0.0
	15 クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をしている。また情報を共有している。	55.0	40.0	5.0	0.0
	16 指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、	45.0	50.0	5.0	0.0

	工夫し対応するようにしている。				
	17 他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫、保育の形態を取り入れている。	21.1	68.4	10.5	0.0
Ⅲ、保育者としての 資質や能力・良識・ 適正 自己評価 (A)	1 保育者としての専門知識や技能を身に付けている。	26.3	57.9	15.8	0.0
	2 保護者に対し、幼児のことや自分の保育の事を分かり易く話す事ができ、保護者との信頼関係を作ることに取り組んでいる。	42.1	52.6	5.3	0.0
	3 仕事の手順をよく考え、能率よく行っている。	40.0	50.0	10.0	
	4 保育者の人間性が子ども達に影響を与えることを自覚している。	65.0	35.0	0.0	0.0
	5 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにしている。	70.0	30.0	0.0	0.0
	6 朝と帰りの挨拶は明るく親しみを込め行い、感謝の気持ちを言葉などで表している。	80.0	20.0	0.0	0.0
	7 園の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない。00	95.0	5.0	0.0	0.0
	8 服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気を付けている。	80.0	20.0	0.0	0.0
	9 教材、教具の管理、点検、園内外の清掃や整理整頓を実行している。	60.0	40.0	0.0	0.0
	10 締め切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている。	80.0	20.0	0.0	0.0
	11 他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる。	45.0	50.0	5.0	0.0
	12 子どものこと、クラスの出来事など必要なことは園長・副園長・主任に報告、連絡、相談している。	85.0	15.0	0.0	0.0
	13 当番や役割による仕事を理解し、確実にやっている。	85.0	15.0	0.0	0.0
	14 上司の指示、命令は責任をもって実行している。	75.0	25.0	0.0	0.0
	15 幼児や教育・保育に関する情報を日ごろから得ようとしている。	50.0	45.0	5.0	0.0
	16 社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている。	50.0	50.0	0.0	0.0
Ⅳ、保護者への対応・守秘義務 自己評価 (A)	1 一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している。	31.6	52.6	15.8	0.0
	2 クラス便りなどで保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストなどを活用してわかりやすく伝える工夫をしている。	50.0	38.9	5.6	5.6
	3 個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝えあっている。	60.0	40.0	0.0	0.0

4 保育参観や保護者面談を定期的に行い、子どもについて、保育や家庭でのあり方について共通理解を得よう努めている。	58.8	29.4	5.9	5.9
5 定期的にアンケート等にて保護者の要望を聞き、子どもにとってよりよい環境づくりに努めている。	38.9	50.0	11.1	0.0
6 保護者との情報交換の内容を、必要に応じて記録している。	44.4	44.4	5.6	5.6
7 子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら接するよう努めている。	57.9	42.1	0.0	0.0
8 保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受け入れたり、断ったり無視しないで園長・副園長・主任・学年主任等に報告や相談をしている。	84.2	15.8	0.0	0.0
9 必要な場合は、自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる。	42.1	47.4	10.5	0.0
10 教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない。	80.0	20.0	0.0	0.0
11 秘密情報（保護者・園児等に関する個人情報、及び園の運営上の情報、保育技術・保育計画等の情報）については園長の許可なく使用、開示、漏洩していない。	90.0	10.0	0.0	0.0
12 秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している。	82.4	11.8	5.9	0.0
13 秘密情報の帰属は園、または法人にあることを認識し、書類・電子データは持ち帰らないようにし、どうしても必要な場合は持ち出しの許可を園長にとっている。	100.0	0.0	0.0	0.0
14 秘密情報の書類・電子データのコピーは施設長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要が無くなった場合は適切に処分している。	88.2	11.8	0.0	0.0
15 秘密情報について新たに知り得たことについては、直ちに園長に報告している。	83.3	16.7	0.0	0.0
16 正しい日本語、ていねいな言葉と敬語を用いて語りかけ、相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。	55.0	45.0	0.0	0.0
17 親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない。	65.0	35.0	0.0	0.0
18 電話は相手が見えないために誤解が生じやすい。簡潔に要領よく、対話する事を心がけている。	68.4	31.6	0.0	0.0
19 保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している。	75.0	25.0	0.0	0.0
20 長期の欠席や入院等の場合は見舞ったり、園や	52.9	29.4	0.0	17.6

	クラスの様子を伝えたりしている。				
	21 保護者の国籍、思想、宗教により、また子どもの性差、障害、個性差等によって区別、差別していない。	90.0	10.0	0.0	0.0
	22 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している。	85.0	15.0	0.0	0.0
V、地域の自然や社会とのかかわり 自己評価 (A)	1 地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている。	65.0	30.0	5.0	0.0
	2 地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している。	41.2	52.9	5.9	0.0
	3 子どもの医療や保健に関する問題および地域住民から受けた子育て相談の内容について、相談及び連絡先を把握している。	23.5	52.9	23.5	0.0
	4 実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し、指導的立場で接している。	42.1	52.6	5.3	0.0
	5 中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、その目的や意義を理解・確認している。	42.1	57.9	0.0	0.0
	6 園の保育内容が小学校への準備としてつながることを理解している。	73.7	26.3	0.0	0.0
	7 小学生が遊びに来ることのできる場（行事を含む）がある。	33.3	38.9	16.7	11.1
	8 卒園した子どもの情報を得るように努めている。	22.2	72.2	0.0	5.6
	9 小学校が、園での子どもの育ち等について、どのような情報を必要としているか理解するよう努めている。	44.4	55.6	0.0	0.0
	10 雪遊び・畑で栽培収穫した野菜での食育体験など、地域の気候や特性を生かした保育を実践している。	66.7	33.3	0.0	0.0
	11 高齢者との交流のためのデイサービス施設交流や、地域との交流のための地域行事への参加の呼びかけを積極的に行っている。	0.0	18.8	50.0	31.3
VI、保育者の専門性に関する研修と研究への意欲・態度 自己評価 (B)	1 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加し、事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめている。	23.5	47.1	17.6	11.8
	2 自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行うとともに、保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、副園長、園長と話し合っている。	33.3	55.6	11.1	0.0
	3 指導計画の作成や記録の取り方、考察のあり方について学んでいる。	25.0	56.3	12.5	6.3
	4 環境構成・再構成のあり方について関心を持って学んでいる。	44.4	50.0	4.6	0.0
	5 保護者への対応のあり方について学んでいる。	55.0	45.0	0.0	0.0

	6 園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている。	47.4	52.6	0.0	0.0
	7 園の遊具や教材について子どもはどんな使い方をするのか、どのような使い方が危険か予測できる。	50.0	44.4	5.6	0.0
	8 園舎の構造や保育室・遊戯室の位置・大きさがどのような教育的な意味を持つかについて理解している。	26.3	63.2	5.3	5.3
	9 園庭や畑、砂場、通路、かくれ場所などの位置・広さなどがどのような教育的な意味を持つか理解し、保育に生かしている。	26.3	68.4	0.0	5.3
	10 子どもを取り巻くさまざまな状況について、背景・原因・実態はどうであるか興味・関心をもっている。	45.0	55.0	0.0	0.0
	11 アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について興味・関心をもっている。	70.0	30.0	0.0	0.0
	12 幼保小連携の意義やあり方について興味・関心をもっている。	30.0	65.0	5.0	0.0
	13 子どもたちの安心・安全に関する危機管理について興味・関心を持っている。	65.0	35.0	0.0	0.0
	14 保育の専門知識や技能の他に趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある。	40.0	50.0	10.0	0.0
VII、保育の在り方、 3歳未満児への対応 自己評価 (A)	1 朝の登園時は家庭からの連絡をもとに視診・触診をして乳幼児の健康状態を確かめている。	87.5	12.5	0.0	0.0
	2 体調が悪そうなときは寝かせたり検温をするなど、適切な処置を行いすぐに家庭に連絡している。	68.9	11.1	0.0	0.0
	3 保護者から健康状態などの申出を受けるなど、乳幼児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖などの既往症について把握している。	77.8	22.2	0.0	0.0
	4 体重・身長などの測定を定期的に行い家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している。	58.8	41.2	0.0	0.0
	5 家庭と連携をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食への移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている。	70.6	29.4	0.0	0.0
	6 睡眠が十分とれるような静かな環境を整え、午睡の状態(呼吸・顔色・嘔吐・汗)およびSIDS(乳幼児突然死症候群)のチェックをして記録している。	82.4	17.6	0.0	0.0
	7 一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせ、オムツ交換をしたり、トイレに促している。	77.8	22.2	0.0	0.0
	8 乳幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察視して受	72.2	27.8	0.0	0.0

	けとめ、信頼関係を築いている。				
	9 一人ひとりの乳幼児の発達課題について見通しをもって保育している。	61.1	38.9	0.0	0.0
	10 落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語り掛けたりして、乳幼児が人との関わりの楽しさや心地よさを味わえるようにしている。	72.2	27.8	0.0	0.0
	11 泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている。	72.2	27.8	0.0	0.0
	12 乳幼児の心身の発達及び生活の連続性に配慮し、好奇心や発達を促す環境を整えて保育をしている。	55.6	44.4	0.0	0.0
	13 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとり、安心感と自己肯定感が持てるような言葉がけをしている。	66.7	33.3	0.0	0.0
	14 禁止語を不必要に用いないようにしている。	61.1	38.9	0.0	0.0
	15 乳幼児期は身体的条件や成育環境などの違いにより、一人ひとり心身の発達に個人差が大きいことを理解し関わっている。	66.7	33.3	0.0	0.0
	16 保育者全員が情報を共有し、クラスに関係なく、その場にいる保育者が適切な言葉がけや対応をしている。	56.6	44.4	0.0	0.0
	17 指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い共通理解をもって対応するようにしている。	44.4	55.6	0.0	0.0
	18 他クラスや異年齢児との触れ合う機会がもてるように様々な工夫、保育の形態に配慮している。	33.3	50.0	16.7	0.0
Ⅷ、地域における子育て支援 自己評価 (B)	1 地域開放(親子保育園体験日・行事など)について職員間で共通理解の上取り組んでいる。	52.6	47.4	0.0	0.0
	2 自園の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやお便りで分かりやすく説明できる。	26.3	68.4	5.3	0.0
	3 親しみやすい雰囲気を心がけ、利用者に積極的に声をかけている。	73.7	21.1	5.3	0.0
	4 子どもが自分で遊びを考え出して主体性を発揮できる環境を作り、子どもの支援ができる場を作っている。	38.9	55.6	5.6	0.0
	5 講座等で子育ての学習機会を設けて、親の支援ができる場を作っている。	20.0	53.3	13.3	13.3
	6 利用者同士(子ども同士・親同士)の関係が作りやすいよう配慮して、遊びや場の設定をしている。	37.5	56.3	6.3	0.0
	7 どの利用者にも公平に接している。	76.5	17.6	5.9	0.0
	8 利用者同士(子ども同士・親同士)の仲間づくり	50.0	37.5	12.5	0.0

	を促し、場の全体に気を配っている。				
	9 価値観、経験、力量などの利用者の多様性を受け入れ、それに合わせた対応をしている。	43.8	43.8	12.5	0.0
	10 利用者が良好な親子関係を築くことができるように、肯定的に働きかけている。	46.7	46.7	6.7	0.0
	11 課題のある親子に気づき、利用者の気軽な相談を大切に受けとめている。	50.0	43.8	0.0	6.3
	12 専門的な言葉を極力使わずに日常的な言葉で分かりやすく伝えている。	64.7	29.4	5.9	0.0
	13 保護者などから問い合わせがあった場合に、自園または地域の子育て支援に関する情報について説明できる。	21.1	68.4	5.3	5.3
	14 対応が難しいケースの場合に連携すべき専門機関を知っている。	22.2	55.6	16.7	5.6
	15 魅力的な活動、居心地のよい場所を維持するために、現状の課題や今後の運営について話し合っている。	18.8	68.8	12.5	0.0
	16 地域の子育て支援ニーズを把握し、地域に自園の子育て支援事業を紹介している。	25.0	50.0	25.0	0.0
	17 講座準備等の業務が円滑に進むよう、協力し合っている。	26.7	53.8	20.0	0.0
IX、年間目標 自己評価 (B)	1 目標の設定は適正であった。	45.0	55.0	0.0	0.0
	2 目標への取組は適正であった。	50.0	50.0	0.0	0.0
	3 目標は達成できた。	35.0	65.0	0.0	0.0
	4 目標は期待した成果をあげた。	45.0	50.0	5.0	0.0
総 合 自己評価 (A)	総合的なまとめ 私たちの自己評価の結果を振り返り、以下のように総括します。 1. 高評価のポイント •子どもたちの姿・発達を捉えた保育 子どもたち一人ひとりの姿や発達をよく理解し、保育士間で話し合いながら日々の活動や生活を計画的に進めることができています。個々の子どもに寄り添った関わりを心がけ、支援が必要な子どもの状況変化についても職員間で密に連携・情報共有し、一貫した対応に努めています。 •行事の負担軽減と内容充実 行事の必要性について職員会で十分に議論し、子どもと職員双方の負担を軽減しつつも、行事内容を充実させることができました。 •保護者とのコミュニケーションと守秘義務の遵守 保護者との日頃のコミュニケーションを大切にし、相談に乗ったり、怪我などがあつた際には丁寧に状況を伝え謝罪するなど、気持ちの良い対応を心がけています。また、保護者の個人情報や園の機密情報に関する守秘義務を徹底しています。				

•健康管理と生活リズムの確立

看護師と連携しながら子どもの健康管理に努め、集団生活の中で一人ひとりに寄り添いつつも、園での生活リズムをしっかりと作り上げ、子どもの成長を促すことができています。

2. 改善の必要性があるポイント

•指導計画と環境構成の具体性

子どもたちが遊びを広げられる環境設定がまだ不十分であるとの認識があり、環境の再構成に時間を要する場合があります。年間を通して同じおもちゃで遊ぶ傾向や、遊びの進展が見られないケースもあるため、具体的な事例を共有し、子どもが主体的に関わる環境作りや指導計画の具体性を高める必要があります。

•異年齢交流の促進

今年度は異年齢児の交流が少なく、子どもたちが自然に交流できる機会が不足しています。職員間の連携を強化し、異年齢児が互いに学び合えるような環境設定や活動内容の工夫が求められます。

•保育者間の連携と情報共有

日々の保育に余裕がなく、職員同士で互いの保育を見合う機会が十分に取れていません。また、職員間の連携や全体への情報発信において、伝言ゲームのようになってしまうことがあるため、よりスムーズな情報共有と意見交換ができる職場環境が必要です。

•保護者との連携強化と情報提供

保護者の集団生活への認識不足による感染症の流行や、地域の方々の行事参加への負担を感じる声があるなど、保護者との連携や情報提供の質に改善の余地があります。

•保育者の専門性向上と研修機会

新しい情報や知識の習得、研修への参加が十分ではないと感じている職員がいます。また、パート職員の研修機会の確保や、障害のある子どもへの対応に関する人員配置など、保育者の専門性を高めるための支援体制をさらに検討する必要があります。

•子育て支援と地域との連携

子育て支援の種類や活用方法の把握、園解放時の環境整備に改善の余地があります。また、高齢者との交流など、地域全体との交流機会をさらに広げるための工夫が必要です。

3. 来年度に向けた具体的な方向性

•指導計画の具体化と環境構成の改善

子どもが主体的に関わる遊びが広がるよう、指導計画の具体性を高め、定期的な職員間での意見交換会を通じて実践的なアプローチを模索します。また、遊びの質の向上につながるおもちゃの充実を図ります。

•異年齢交流の積極的な促進

異年齢児が自然に交流し、互いに学び合えるような活動や環境設定を積極的に増やしていきます。職員間の連携を密にし、効果的な異年齢交流の機会を創出します。

•保育者間の連携強化と情報共有の円滑化

日々の保育における職員間の連携を強化し、互いの保育を評価し合い、課題を共有できる機会を設けます。全体への情報発信方法を見直し、円滑な情報共有を図ります。

•保護者との連携強化と情報提供の充実

ルクミーを活用した情報提供を積極的に行い、保護者とのコミュニケーションを強化します。定期的な保護者アンケートやフィードバックの実施を通じて、保育内容の改善に繋げ、園の方針理解を深める努力を継続します。

•継続的な学びと専門性の向上

全職員が定期的に研修や勉強会に参加し、最新の保育知識や技能を習得できる機会を確保します。特にパート職員への研修機会の提供や、障害のある子どもへの適切な支援体制について検討を進めます。

•子育て支援と地域連携の推進

地域における子育て支援の種類や活用方法を把握し、園解放時の環境整備を検討します。また、小学校、中学校、そして高齢者との交流など、地域全体との交流機会をさらに増やすための具体的な取り組みを進めます。

•園の目指す方向性の明確化

どのような園を目指しているのか、職員間で共通認識を持つための話し合いの機会を設け、行事や活動の改善に繋がります。

私たちは、この評価結果を真摯に受け止め、さらなる質の向上を目指して努力を続けます。来年度も、子どもたちにとって最良の環境を提供できるよう、全員で取り組んでいきます。